

ほくせつ SITA 2020 年 4 月 11 日 勉強会

忘れられないパーソナルコンピュータ

**平成の 30 年間は、高度成長が終わり、技術の中心が
モノから情報通信に切り替わった時代である。主役にな
ったのがインターネット。**

82年

NEC
PC98初代機

89年

ノート型 PC の
発売相次ぐ

92年

日本で
ネット商用利用
始まる

94年

首相官邸が
公式サイト開設

94年

アマゾン創業
amazon

創業者 カール・ラーマン氏

95年

米ヤフー創業

創業者 テリー・セメル氏

95年

(平成7年) ウィンド
ウズ95発売 ネット
利用本格化



マイクロソフト創業者 ビル・ゲイツ氏

98年

米グーグル創業

Google

創業者 ラリーページ氏

1990年代前半

インターネット時代幕開け

ネット上情報を閲覧・公開する
仕組み、
WWW が確立する

インターネット時代幕開け

1990 年代前半

ネット上で情報を閲覧・公開する仕組み、^{ワールドワイドウェブ} W W W が確立します

すべてがネットの渦に～

ネットにつながるモノ 世界で約 173 億

世界のスマホ利用台数 約 40 億

日本のケータイ契約数 約 1 億 6700 万

日本のスマホ個人保有率 約57%

2017 年版情報通信白書

1999 年(平成 11 年) i モード始まる 携帯でネットが可能になる

2004 年米フェイスブック創業 

2005 年ユーチューブ始まる YouTube 

2006 年米ツイッター創業 

2007 年(平成 19 年)米国でアイフォン発売 スマートフォン時代始まる

アップル元 CEO・スティーブ・ジョブズ, 多様なアプリが登場、SNS の拡大

2008 年日本でもスマホ発売

2010 年 インスタグラム登場 

2011 年 LINE サービス開始 

2013 年 世界のスマホ出荷台数が従来型携帯電話を超える

●1980 年代(8ビットパソコン)

98 (NEC) シリーズ、FM (富士通) シリーズの始まり 1980 年代初頭にはより高機能な 8 ビット機が発売された。NEC は PC-8800 シリーズ (1981 年)、富士通が FM-8 (1981 年)、その FM-8 から周辺機能を削り、音源を搭載した FM-7 (1982 年)、シャープからは MZ シリーズを開発した部署とは別のシャープテレビ事業部が開発した X1 シリーズ (型番は CZ、1982 年) が登場し市場を寡占化した。この頃には 8 ビット御三家とはこの 3 機種を指すようになった。また、後発のソニーは初めて 3.5 インチのフロッピーディスクを内蔵した機種を発売して話題を集めた。なお、3.5 インチマイクロフロッピーディスクの規格とは別に松下電器・日立が 3 インチのコンパクトフロッピーディスクという規格を策定したが普及するには至らず、最終的にはソニーの推す 3.5 インチが主流となった。

●2010 年代 (平成 22 年頃～)

IoT が本格化

様々なモノがネットにつながる

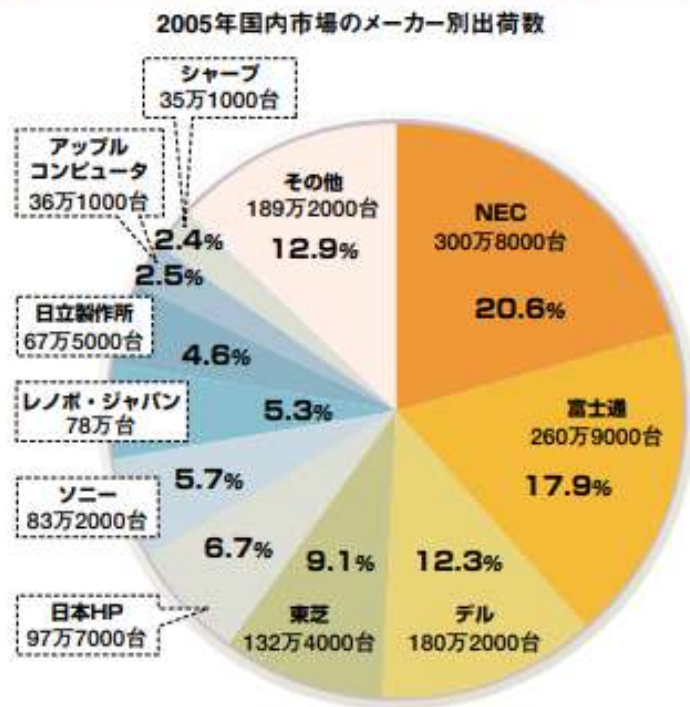
乗用車、荷物、街角のセンサーなど多くの機器が今後、新たにネットの世界に加わるとみられる。

特に、次世代無線通信規格「5G」は、1 平方キロメートルあたり 100 万台の機器を同時接続できる

ようになり、IoT の動きが大きく加速されます。

2005 年（平成 17 年）世界・国内市場のメーカー別出荷台数

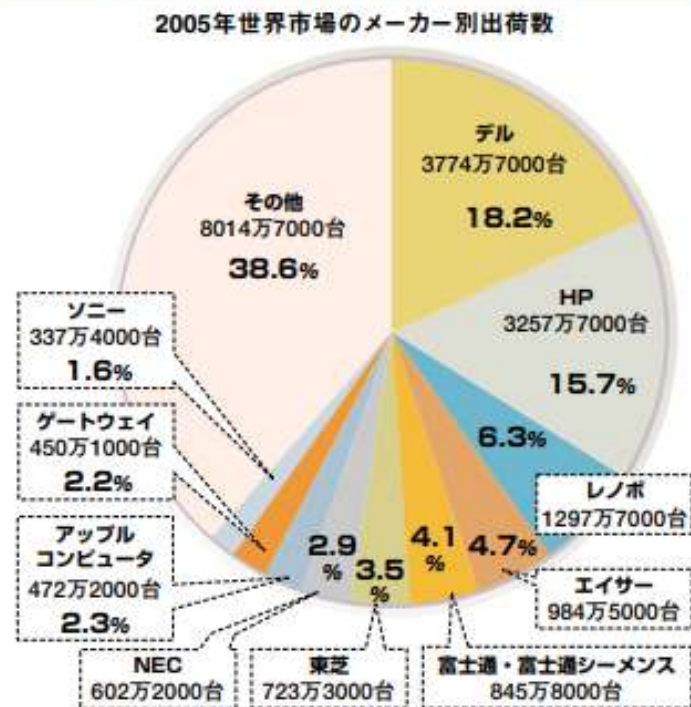
図1 国内PCメーカーをデル、HPが猛追！



NECや富士通など、長年PCを手がけている国内メーカーの顔ぶれは変わらないが、デルやHPの伸びも大きく、特にデルは富士通に5.6ポイント差まで肉薄している。

資料/IDC Japan

図2 世界ではデル、HPが圧倒的な強さ



世界市場ではデル、HPの2強が圧倒的だ。一方、欧州を中心にエイサーのノートPCの出荷が好調で、今後ノートPCへのシフトが進むと、エイサーがさらに伸びるかもしれない。

資料/IDC Japan

Lenovoとは なんだ!?

文：山谷剛史

IBMのPC事業売却は、ご存知のとおり業界だけでなく、一般のニュースメディアでも大きく取り上げられた。Think Padファンやユーザーは今後どうなるかと不安を抱えていることだろう。売却先のLenovo（聯想集団）は一体どんな企業なのか？ 現在のIBM技術はそのまま引き継がれるとはいえ、Lenovoの技術力は？ IBM PC事業の受け入れ先、Lenovoを紹介しよう。



Lenovoというのは中国国内でシェアナンバー1のITメーカー。Lenovoの歴史を紐解くと、1989年に聯想計算機集団を設立、翌年より同社ブランドのPCを販売し始め、96年に中国国内シェアナンバー1のメーカーとなる。現在同社のカバー範囲は広く、デスクトップPCやノートPCなどのコンシューマ向け、ビジネス向け、ネットカフェ向けのPCを販売するだけでなく、サーバもSOHO向けの低価格サーバから、ブレードサーバ、Itaniumサーバまで幅広いラインナップを持つ。一方ではPDAも手がけ、WindowsCEと、PalmOSの両方をラインナップに持つ。

インドでマザーボードやビデオカードなどのアセンブリパーツも販売している。業務用ネットワーク機器も販売。携帯電話ではスマートフォンも扱う。ひとことで言うなら、IT関連製品をなんでも扱う巨大企業だ。

Lenovoは中国ではどのような評価を得ているのだろうか。シェアナンバー1ながらプライスリーダー的な存在でもあり、「Lenovo製品は安い」というイメージがある。最近では3000元PC「圓夢」を発表した。ただし、その値下げの中身は、極力アプリケーションを排除し、またOSをDOSにする＝あとでユーザーが海賊版Windowsを入れて使うと

ブを、電話やネットを使った通信販売とLenovo専門店で販売している。「Lenovo専門店」と言えば、日本で言うところの、商店街にある松下専門の電器屋のような店で、販売からアフターサポートの窓口まで担当し、大都市はもちろん、小都市まで中国全土に展開している（写真1）。しかしPCにしてもデジカメにしても、外国製よりはかなり安い値段設定をしているにも関わらず日本の大手メーカーの製品に比べるとその認識に大きな落差があり、中国の人々も「中国製だから……」と認識している。とはいえ、北京や上海にしかサポートセンターがなく、しかも修理代が

IBMがPCワークステーションの新機種を発売

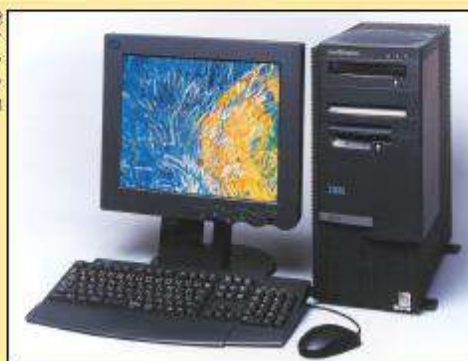


ダイヤルIBM 0120-04-1992
http://www.ibm.co.jp/

日本アイ・ビー・エム(株)は、CADやCGなどハイエンドグラフィック向けのPCワークステーションの新機種「IntelliStation (インテリステーション) M Pro」を発売した。

IntelliStation M Proは、Intel社との技術提携「AMA (Advanced Manageability Alliance)」に基づいた機能が採用されているのが特徴で、遠隔地からの電源操作「Wake on LAN」やパソコンの動作状況の監視や異常通知を行なうIntel社の「LAN Desk Client Manager v.3.1J」(日本語版)を搭載する。管理ソフト「NetFinity V5.0」や「LCCM (LAN Client Control Manager)」と併用することにより、管理コストを低減できる。「2Dモデル」と「3Dモデル」が用意され、2DモデルはPentium II -266MHzを搭載(デュアルプロセッサ対応)、64MBメモリ(ECC対応SDRAM、最大512MB)、4.2GB UltraATA HDDなどを装備。3DモデルはPentium II -300MHz(デュアルプロセッサ対応) / 128MB / 4.5GB Ultra Wide SCSI HDDを搭載。いずれも最大24倍速CD-ROMドライブ、100Base-TX対応

ネットワーク機能が強化されたハイエンドPCワークステーション「IntelliStation M Pro」。



Ethernetコントローラなどを装備する。ビデオには、2DモデルはAGP対応の3Dlab社製「Permedia2」を、3DモデルはIntergraph社製「Intense3D Pro 2200 / 4T」を採用する。価格は、2Dモデルが59万8000円、3Dモデルが128万円。

日本IBMがワークステーションとThinkPadの新モデルを発表



日本アイ・ビー・エム(株) 0120-04-1992
http://www.ibm.co.jp/

日本アイ・ビー・エム(株)は、WindowsNTに特化し、3D CADやCGデザイン向け3Dグラフィックワークステーション「IntelliStation」の新モデルと、薄さ36.5mmの「ThinkPad 600」など、新モデル3機種を発売した。

IntelliStation M Proの主な仕様は、①CPUにPentium II -400MHzを採用(デュアルプロセッサ可)、②チップセットにIntel 440BXを搭載しシステムバスを100MHzで動作、③128MBメモリ、④9.1GB HDD(Ultra Wide SCSI)、⑤ビデオカードに、14個のジオメトリ演算用DSPや、フレームメモリ16MB/テクスチャメモリ16MBを搭載する「Intense 3D Pro 3400GA」を装備し、1280×1024ドット/1670万色の表示が可能——など。

ThinkPad 600は、厚さ1.2mmのカーボンファイバー樹脂製筐体や、実装部分の隙間の最小限化などで、高耐久性を実現。スクロール、拡大表示、プレス/リリース選択機能などを持つ拡張版TrackPointの採用、キーストローク2.8mmのキーボードなど、使いやすさを追求している。ThinkPad 600の主な仕様は、①CPUにPentium II -266MHz/233MHzを採用、②32MBメモリ(最大

160MB)、③4GB/3GB HDD、④ウルトラスリムベイ内蔵の24倍速CD-ROMドライブ(FDDと排他使用)、⑤56kbpsモデム、⑥グラフィックにMagicGraph 128XD(2MB)を搭載し、13.3インチTFT液晶ディスプレイで1024×768ドット/6万5536色表示が可能——など。本体サイズは300(W)×240(D)×36.5(H)mm、重量は2.5kg、駆動時間は3.8時間。このほかにDVD-ROMドライブ装備のハイエンドのThinkPad 770E/ED、ミドルレンジモデルのThinkPad 380XDも同時に発売された。

価格は、IntelliStation M Proが54万3000円から、ThinkPad 600が67万8000円と57万8000円の2タイプ。

強度、放熱、使いやすさなどを考慮してデザインされている。筐体にCNCカットを施し、視覚的にも薄さを強調したThinkPad 600。



IBMがAptiva Sシリーズのタワータイプを発売



日本アイ・ビー・エム 0120-04-1992
<http://www.ibm.co.jp/>

日本アイ・ビー・エム(株)は昨年冬に発売したAptiva SシリーズにタワータイプのLモデル3タイプを追加発売した。前作のスプリットモデル同様、インテリア性、操作性を大幅に強化させた。

キーボードの上に好みのアプリケーションをワンタッチで起動させることができる4つのEZボタン、CDボタン、サスペンド・ボタンなどがあるほか、ウィンドウ内の情報を上下左右にスクロール



写真は最上位モデルの「2142-L87」。重低音再生を行うアコースティクスベースモジュールが付属し、インテリア性を重視したモデルチェンジが行われた。

することができるスクロールポイント・マウスなどが付属する。2140-L57のスペックはCPUにPentium II -266MHz、メモリ32MB、6GB HDD (Ultra ATA) など。グラフィックに3D Rage Pro (2MB、AGP) を搭載。BOSE 製スピーカーを内蔵した15インチモニタが付属。

最上位モデルの2142-L87はCPUにPentium II -333MHz、32MBメモリ、8GB HDD (Ultra ATA)、グラフィックに3D Rage Pro (4MB、AGP、1280×1024ドットで1677万色まで可能)のほか、Zipドライブを搭載している。BOSE 製スピーカー内蔵17インチモニタのほか、共鳴と共振の原理を利用し、パワフルな重低音再生を行うアコースティクスベースモジュールが付属する。

全モデルに、32倍速CD-ROM、K56flexモデムが付属する。添付アプリケーションはロータス1-2-3とワードプロをはじめ、67本のアプリケーションが用意されている。また、Microsoft Windows 98へのアップグレード・サービスも予定されている。

価格はオープンブライズだが、通信販売のIBM PC Directでの参考価格は2140-L57が31万9000円、ディスプレイを17インチにした2140-L67が35万9000円、2142-L87が43万9000円となっている。

NECがモバイルPentium II-300MHzを搭載したノートパソコンを発売

パソコンインフォメーションセンター ☎ 0120-60-9821
http://www.nec.co.jp/

NECは、モバイルPentium II-300MHzを搭載したA4型ノートパソコン「VersaPro NX VA30D/54A」と「Lavie NX LT30D/54A」を発売した。

VersaPro NX VA30D/54Aの主な特徴は、①CPUにモバイルPentium II-300MHz(2次キャッシュは外付けで512KB)、②64MBメモリ(最大256MB)、③4.3GB HDD、④最大24倍速CD-ROMドライブを内蔵、⑤グラフィックにTrident製Cyber9388(2MB)を採用し、14.1インチTFT液晶ディスプレイで1024×768ドット/6万6536色表示が可能、⑥本体サイズは305(W)×250.5(D)×32.9(H)mm、重さは2.19kg、⑦バッテリーにリチウムイオンバッテリーを採用、⑧OSにWindows98またはWindows95がプリインストール——など。Lavie NX LT30D/54Aは、56kbps FAXモデム(PCカード)を搭載し、

OSにWindows98がプリインストールされる以外VersaPro NXと同じ。

価格は、未定(9月1日現在)だが60万円代とのこと。

オプションでUSBマウス(筐体下面と同じスレートグレー)や、★のシガーライターに接続して充電するカーアダプタも発売される。



NECが98ノートの最新モデルを発売

問い合わせ先: NECパソコンインフォメーションセンター ☎ 0120-60-9821
http://www.nec.co.jp/

NECは、PC9821シリーズ(PC-9800系)のノートPCの最新モデル「PC-9821Nr266」を発売した(3月2日)。

PC-9800シリーズのキーボードレイアウトを採用し、従来のPC-9800シリーズの豊富な資源を利用可能。主な仕様は、①CPUにMMX Pentium-266MHzを採用、②32MBメモリ(EDO)、③4.3GB HDD、④16倍速CD-ROMドライブを内蔵——など。またOSにWindow95/98を搭載した2モデルが用意されている。価格は35万8000円。

PC-9800シリーズのソフトウェアなどをそのまま利用可能なPC-9821Nr266。



東芝がEquiemとDynaBookの新モデルを発売

東芝ダイレクトPC 0120-13-1100
http://www.toshiba.co.jp/

東芝は、企業向けデスクトップ「Equiem」と、ノートパソコン「DynaBook」の新モデルを発売した。

液晶一体型のEquiem 6260L1の主な仕様は、①CPUにPentium II-266MHz、②32MBメモリ、③3GB HDD、④グラフィックに



ViRGE/MX (2MB) を搭載し15インチTFT液晶ディスプレイで1024×768

東芝独自の省電力機能「TAPM」(Toshiba Advanced Power Management)を採用し、Windows NT4.0での省電力モードを実現。縦横回転できる液晶ディスプレイを装備するEquiem。

ドット/6万5536色表示が可能—など。サイズは468 (W) × 218 (D) × 418 (H) mm。そのほかミニタワー型、デスクトップ型や省スペースデスクトップ型のモデルが用意される。

DynaBook Satellite Pro 490Xの主な仕様は、①CPUにPentium II-266MHz、②32MBメモリ (最大96MB)、③4.0GB HDD、④20倍速CD-ROMドライブ、⑤グラフィックにViRGE/MX (2MB) を搭載し13.3インチTFT液晶ディスプレイで1024×768ドット/6万5536色表示が可能—など。サイズは304 (W) × 239 (D) × 51.5 (H) mmで本体重量は3.2kg。そのほかコストパフォーマンスを重視したSatellite 315CDT/CDSがある。

価格は、Equiem 6260L1が49万8000円など。Satellite Pro490X/Satellite 315は未定。

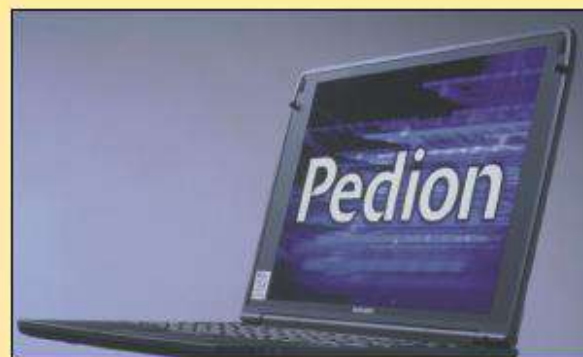
三菱電機がPedionの新機種を発売

三菱電機コンピュータ/ファームウェアセンター 0120-72-7388
http://www.melco.co.jp/

三菱電機は、同社の薄型ノートパソコン「Pedion」のキーボードを変更した「Pedion model10/11」を発表した。従来のPedionはクリックラバー自体でキーボードを支えるラバー式であったのに対して、新モデルは、通常のノートパソコンで使われている、キーボードの上端一辺を固定して支える「ヒンジ式」を採用し、剛性感が向上しているのが特徴。

そのほかの仕様は従来のモデルと同じで、①CPUにMMX Pentium-233MHzを搭載、②64MBメモリ (最大64MB)、③2.1GB HDDを内蔵、④グラフィックはNeoMagic製 MagicGraph 128XD(2MB)を採用し、12.1インチTFT液晶ディスプレイで800×600ドット/26万色表示が可能、⑤筐体はマグネシウムダイキャストで、サイズは297(W)×218(D)×18(H)mm、重さは1.4kg、⑥電源はリチウムイオンバッテリー (本体に固定内蔵)。駆動時間は約2時間 (セカンドバッテリー使用時で最大8時間)—など。model10は、

OSにWindows95、model11はWindows98がプリインストールされる。価格はオープンブライズ。model11は7月25日より発売。



ヒンジ式に変更されてもキーボードは1mmのキーストロークが確保されている。

松下電器が、液晶一体型PCを発売

テクニカルサポートセンター ☎0120-87-3029
http://www.panasonic.co.jp/pc/pub/cf57b1/

松下電器産業は、Celeron-366MHzを搭載した液晶一体型パソコン「Panacom LC」を発表した。

Panacom LCは、サイズが327(W)×168(D)×372(H) mm、本体部の薄さは73mmの省スペース設計になっているほか、最大消費電力が58W、酸化炭素排出量換算で、同社のデスクトップPCの約1/4の省エネ設計を実現しているという。また本体キャビネットの材質として金属のアルミダイキャストやアルミ鍍金を廃止したPC/ABS樹脂を採用し、リサイクル可能なエコロジー設計になっている。そのほかの主な仕様は、①64MBメモリ (最大192MB)、②6.4GB HDD、③最大24倍速CD-ROMドライブを内蔵、④グラフィックにSilicon Motion製LynxEM

SM710 (2MB) を採用し、14.1インチTFT液晶ディスプレイで1024×768ドット/6万5536色の表示が可能、⑤PCカードスロット(Type II×2またはType III×1)を装備、⑥ネットワークアダプタ (100Base-TX、Wake on LAN対応) を内蔵——など。価格はWindows 95/98ブリインストールモデルが35万8000円、Windows NT4.0 Workstationブリインストールモデルが37万8000円。

徹底的な省エネ、エコロジー設計を追求したPanacom LC。電源ケーブルや各種接続部がスタンド部両サイドに配置されているため、壁際などに沿って置くことができる。

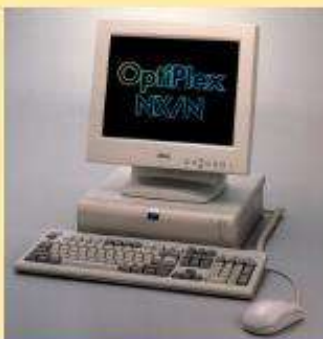


デルコンピュータが初のNetPCを発売

ダイレクトセールス事業部 ☎044-556-6190
http://www.dell.co.jp/jp/

デルコンピュータは、同社初のNetPC製品「OptiPlex NX」と「OptiPlex N」を発売した。NetPCはTCO (Total Cost of Ownership: PCの総保有コスト) を削減するNetPC規格に準拠したパソコンで、ネットワークによる集中管理、ユーザーによるコンフィグレーションの禁止、ローカライズの廃止などの特徴をもつ。

OptiPlex NXの基本モデルは、CPUにPentium II-233/266/300MHzを搭載する3タイプがあり、メモリは最大348MBまで増設可能。ビデオチップにATI Technologies社製の「3D Rage Pro AGP」(2MB、



TCO削減を目的としたNetPC。シールドシャーシ(ユーザーが本体内部を開けることができない筐体)を採用している。

SGRAM) をオンボードで搭載する。モニタは15/17インチ/モニタなしのいずれかを選択する。OptiPlex Nの基本モデルは、CPUにMMX Pentium-200/233MHzを搭載する2タイプがあり、512KBのセカンドキャッシュを実装。メモリは最大256MBまで増設可能で、ビデオチップはS3社製のTrio64V2 (2MB、VRAM) をオンボードで搭載する。モニタは14.1インチTFT/14/15インチ/モニタなしのいずれかを選択する。

共通の仕様としてEthernetアダプタ (10Base-T/100Base-TX)、PCIスロット×1を装備。Windows95かWindows NT4.0がブリインストールされる。

価格はOptiPlex NXがPentium II-233MHz、32MBメモリ、2.1GB HDD、モニタなしの構成で14万9800円、OptiPlex NはMMX Pentium-200MHz、32MBメモリ、2.1GB HDD、モニタなしの構成で12万800円となっている。両モデルとも基本モデルをベースに注文生産 (BTO生産) となっている。

シャープが初の省スペースPCを発表



☎043-297-4649 / 06-821-4649
http://www.sharp.co.jp/

シャープ㈱は奥行き17cmの省スペースPC「メビウス MN-830」と「メビウス MN-835」の2モデルを発表した。

MN-830の主な仕様は、CPUにPentium II-233MHz、32MBメモリ(SDRAM、最大128MB)、3.2GB HDD、20倍速CD-ROMドライブ、PCI/ISAの共用拡張スロット×1、Type II×2またはType III×1のPCカードスロット、Ethernetアダプタ(100Base-TX/10Base-T)、Trident社製Cyber9397(4MB、SGRAM、AGP接続)のビデオチップ―など。液晶パネルは同社の15インチTFT「スーパーV液晶」で1024×768ドット/1670万色の表示に対応する。その他添付ソフトにより同社のZAURUSとの連携も可能。MN-835の主な仕様はEthernetアダプタの代わりに56kbps(K56flex準拠)のファックスモデムを装備する。本体サイズは351(W)×170(D)×353(H)mm。価格はともに50万円。

大画面の液晶パネルを装備し、奥行きが17cmの省スペースPC「メビウス MN-830/B35」。



日本ゲートウェイがノートPCを発売



日本ゲートウェイ㈱ ☎0120-54-2000
http://www.gw2k.co.jp/

日本ゲートウェイ㈱は、マルチメディア用途を強く意識したノートパソコン2機種、ハイエンドノートシリーズ「Gateway Solo 9150」と、DVD-ROMを内蔵し、重さ2kgのコンパクトノートシリーズ「同3150」を発売した(5月25日)。9150はモバイルPentium II-333/366MHzを搭載し、2倍速DVD-ROMドライブを内蔵するハイエンドノートPCで、ハードウェアMPEG2デコーダやドルビーデジタルAC3出力、NTSC入出力を装備する。また56kbpsモデム(V.90対応)や、120MBのスーパーディスクドライブ(1S-120)も内蔵する。3150は、CPUにモバイルCeleron-300(モデルSE)/333MHz(モデルLS)、モバイルPentium II-366MHz(モデルXL)を搭載し、ネットワークアダプタ、56kbpsモデム(V.90対応)を標準装備する軽量コンパクトサイズのノートPC。さらに3150 LS/XLの2モデルは、2倍速DVD-ROMドライブを内蔵し、ハードウェア

MPEG2デコーダやドルビー光デジタル出力やNTSC入出力を装備する。また3150 LSモデルに英語キーボード、英語版Windows98を搭載したタイプが用意されている。

またモバイルCeleron-366MHzを搭載し、14.1インチTFT液晶ディスプレイを搭載する「5150 LS」、13.3インチ液晶ディスプレイを搭載する「2500 XL」のオールインワンノートPCや、同社の液晶一体型PC「PROFILE」の個人市場向けにHDDやメモリを拡張した「PROFILE LS」も発売した(5月24日)。

mm厚のマグネシウム合金を採用し軽量なA4ノートパソコンGateway Solo 3150。



日本HPがノートPCや企業向けの省スペースPCを発売

問い合わせ先：カスタマーサポート・センター ☎03-3335-8333
http://www.jp.hp.com/go/vectra/

日本ヒューレット・パッカード社は、4年ぶりに国内ノートPC市場に参入し、米ヒューレット・パッカード社が生産しているノートパソコン「HP OmniBook (オムニブック)」シリーズを日本語化したA4サイズのオールインワンモデル「HP OmniBook 4150」を発売した(3月31日)。

OmniBook 4150の主な仕様は、①CPUにモバイルPentium III-300MHzを搭載、②64MBメモリ(最大256MB)、③6.4GB HDD、④最大24倍速CD-ROMドライブ、⑤グラフィックにMagic Graph (2.5MB)を採用し、14.1インチTFT液晶ディスプレイで1024×768ドット/1677万色表示が可能、⑥本体サイズは328(W)×254(D)×35.6(H)mmで、本体重量は2.63kg、⑦リチウムイオンバッテリーで3時間の駆動が可能——など。またOSにWindows95/98日本語版の選択が可能。価格は53万3000円。同社では、今後「HP OmniBook」シリーズを順次日本語化し、発売する予定。

同社は、また企業向けPC「Vectra」シリーズに、Pentium IIIを搭載したモデルなど省スペースPCを4モデル17機種を発売した(3月15日)。CPUにPentium III-450/500MHzを搭載するミニタワー型の「VLi8 MT」は、①64MBメモリ(最大256MB)、②8.4GB HDD、③32倍速CD-ROMドライブ、④グラフィックにオンボードでMatrox製MGA-G200SD (8MB)を搭載、⑤ネットワークアダプタをオンボードで装備——など。省スペースPCの「VLi8 SF」は、本体サイズが370(W)×380(D)×95(H)mmで、CPUファンやHDDの配置などの見直しなどにより33.8デシベルの静粛性を実現している。CPUにPentium III、II、Celeronを搭載した機種が用意され、その他の主な仕様は、24倍速CD-ROMドライブを内蔵す

る以外はVLi8 MTと同じ。ネットワークPCとして位置づけられた「VEi8」は、CPUにPentium III、IIを搭載し、その他の主な仕様はVLi8 MTと同じ。コストパフォーマンスを追求したモデル「VEi7」はCPUにCeleronを搭載し、グラフィックにSiS製Super AGP (4MB)をオンボードで搭載する以外はVLi8 MTと同じ。価格は、VLi8 MTが32万8000円から、VLi8 SFが22万8000円から、VEi8が26万8000円から、VEi7が18万8000円から。

工具なしでの筐体カバーの取り外しが可能な「HP ツール・フリー」筐体を採用するVLi8 SF。



日本HPとしては95年以來のノートパソコンとなるHP OmniBook 4150。セキュリティ機能に重点が置かれ、ユーザーおよび管理者パスワードのほか、起動時のPC製造名の表示や周辺機器管理(DMIアクセス)用の電子シリアル番号などを搭載する。

歴史から振り返るITのトレンド

ITの坎ブリア大爆発

テクノロジーのアンビエント化・日常への浸透

IoT 人工知能 ロボット

2007～ モバイル (iPhone)
ソーシャル (Facebook、Twitter)

2000～ クラウド (Salesforce.com)



1990～ (1993 インターネット商用利用・1995年 Windows95+Internet Explorer)
インターネットの登場による接続の広がり と 拡大
企業や地域を越えた業務の連携や調整の実現



1980～ (1981 IBM Personal Computer 5150)
PCの登場によるクライアントサーバーの普及・分散処理
適用業務領域と利用者の拡大



1960～ (1964 IBM System/360)
メインフレームの登場と集中処理
業務効率や生産性の向上



●人口知能・「産業イノベーションの鍵を握る」

囲碁でプロに勝ち、翻訳や複雑なデータ解析もこなす人口知能(AI)、近年は大学での研究レベルを超えて産業界での活用が進んでいますが、「人間の無意識による作業は困難である」、「今は1歳児の能力と言われています」

●1985,パソコンはアップルと共に産声をあげた

マック「Macintosh」を発表する。マウス、アイコン、メニューを使った GUI 操作環境

他社とのパートナーシップを重視した。現在、活躍している、「Excel」などの Microsoft Office、そして Adobe の主要製品は、1980 年代に Mac の上で誕生しました。今日の Windows を含むパソコン文化を生み出す源流は、Mac、そして Apple にあったと言えます。

●2020 年のパソコン・メーカー「国内」

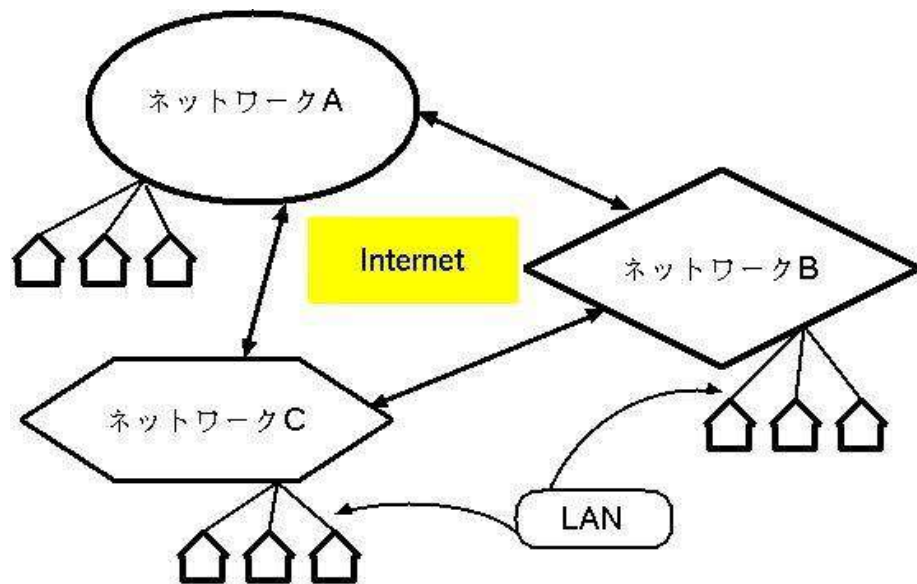
富士通・NEC・Dynabook (シャープと東芝の持ち株比率約(8:2 の合併企業である) VAIO・パナソニック・エプソンダイレクト・オンキヨー

●インターネット 50 年の歴史

	年	主な動き
1960年代	1967	「ARPANET 計画」の誕生 米国防総省高等研究計画局（DARPA）の資金提供で、分散型ネットワークの研究プロジェクトがスタート
	1969	インターネットの原型となる「ARPANET」運用開始 カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）やスタンフォード研究所などの 4 拠点が接続される
1970年代	1971	電子メールの発明 送受信のシステムを識別するため、現在でも使われている「@」の使用が始まる。その後、通信規則が整備され、メーカーが違うパソコン間でも通信が可能になる
1980年代	1989	商用インターネットが誕生 世界初の商用ネット接続サービス提供事業者（ISP）が設立される
1990年代	1991	世界初の Web サイトが誕生 欧州合同原子核研究機関（CERN）が世界初の Web サイトを公開
	1994	Web ブラウザー「Netscape Navigator」公開 テキストと画像を組み合わせて表示できるブラウザーが普及することで利用者の裾野が広がる。インターネットへの入り口であるポータル（玄関）サイトの運用開始
	1997	本格的「検索」システムの登場 Google がシンプルな検索システムとして登場した

●インターネットの「集中」と「分散」

インターネット初めから「分散」を目指していた。核攻撃からコンピューター網を守りたいという米軍の意向があった。まずは、コンピューターとデータ処理の歴史をふり返ってみたい。技術の進歩によって大型コンピューターが登場してデータの処理はこれが一手に引き受けた。1980 年代オフィスや工場で分散処理が行われるようになっていきます。パソコンの性能が上がり、価格も下がります。1990 年には、インターネットの商業利用が始まり利用者はさらに増えていきます。2010 年頃からデータをインターネット経由 IT 企業のコンピューターに処理や保存をゆだねる「クラウド」の利用が広まり集中処理へ回帰した。これにより、加速したデータの集中化はグーグルやフェイスブックなどの巨大 IT 企業は結果的に利用者のデータを吸い上げるための装置になった。



分散

デジタル世界の攻防

【中心】が存在せず、全体の管理者もいない分散型

巨大 IT 企業に
利用者の
データが集中



権威主義国家に
よる国民監視



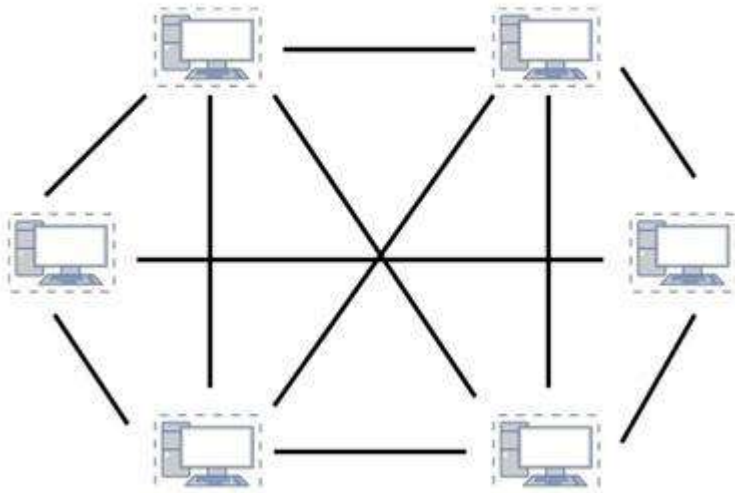
集中

インターネット

ブロックチェーン

分散

P2Pネットワーク

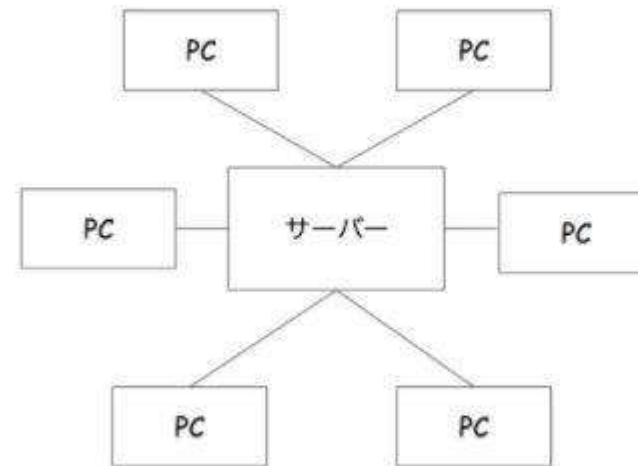


本来のブロックチェーン 自由参加型

活用例:「ビットコイン」 *bitcoin*

集中

中央集権型



許可型 フェースブックの「リブラ」



国家管理型 中国人民元

まとめ

ドイツの若手哲学者、EU『欧州』で哲学の世界のロックスターともてはやされている。マルクス・ガブリエル教授は、コンピュータには知性はありません。意識がなくみずからの「命」を維持しようとしな。コンピュータにはゲームを競う知識はありません。トランジスターで電気の流れを制御しているだけです。ロボットも知性は持てない。『知性とは、問題を見いだし、一定の時間内に解決する能力です。』動物には知性があります。空腹になれば死を意識し、捕食します。

高齢者社会では、ロボットは万能ではありません。代替できない「看護師」は必要な人です。

高齢者社会の未来は人間の知性と倫理、科学技術の進歩にかかっています。

日本はサイボーグを扱うアニメも多く、人間と機械の融合を案外、柔軟に受け入れる文化があります。

未来から歴史をふり返れば、平成時代はインターネットという、「つながる技術」が人々の暮らしや産業を変えた。新技術を今後どうかし次の世代に何を伝えるか。考えてみたいものです。

それでは、最後に、国立電気通信大学で、27年前から、量子コンピュータの研究開発している、西野教授は、これから先、5年・10年さきには「スーパーコンピュータ」と「量子コンピュータ」がそれぞれを補完して作業をすることによって利便性を高める。そしてパソコンはこれからも進化します。特にExcelの分野で活動が広がります。

出典元

パーソナルコンピュータ総合誌 月刊「アスキー」 2005・1～2006・7 月刊「アスキーアーカイブ」 DVD「秘蔵 蔵出し」

新聞・雑誌(日経ビジネス)